

一歩入れば、のんびりとした時代の面影が見え隠れする懐かしい空間。人間らしい営みが息づいていたあの頃の時間がここには今も生きています。遠い昔に無くしてしまった大切なものを暖簾の向こうで見つけてください。

## 甚風呂の概要

甚風呂は湯浅の町並みの特徴である小路の辻に立地し、個性的なデザインの塀を構えた浴場と、経営者の住居であった倉庫付きの主屋で構成されています。建物の明確な建築年代は不明ですが、明治前期頃の建築と思われます。入母屋造妻入の浴場は大正15年に一部改築修繕許可願が出されており、その際に浴室の大規模な工事が行われています。正面には建物と同じくシンメトリーな塀が構えられています。レンガで組まれ、菱形の開口部が設けられた瓦葺の塀には「トンガリ」と呼ばれる六角錐の瓦飾りが載り、重厚な本瓦葺の浴場と共に威風堂々とした外観を見せています。浴場の北側は焚場となっており、さらに経営者の住まいであった主屋へと繋がっています。切妻造平入、本瓦葺で比較的高いつし二階の主屋には、手摺状の格子やトオリニワ上部の吹抜け、天窓、井戸を構えた中庭など、伝統的な意匠が数多く残され、往時の生活様式をよく伝えています。



大正時代の面影、トンガリ



江戸時代に使われていた湯札



営業当時の暖簾



脱衣場

## 創業から現在まで

甚風呂は江戸時代の嘉永年間（1848～53）以前に須井甚蔵氏が開業した公衆浴場です。正式な名称は『戎湯（えびすゆ）』でしたが、経営者の名前から『甚風呂（じんぶろ）』と呼ばれ、4代目の須井甚一氏が昭和60年に営業を終えるまでの間、長年にわたり地域住民の憩いの場として親しまれてきました。廃業から10年以上が過ぎ、主のなくなった甚風呂は平成13年に町の財産となり、その歴史が受け継がれました。平成19年から2年間かけた修理工事を経て、現在は再びあかりが灯されています。ここを訪れる人たちとの出会いは、これから先ずと、甚風呂の新たな記憶として刻まれていくことでしょう。

## 甚風呂全容圖

